

令和 6 年実施 町政懇談会の記録（08農業）

地区名	開催日	大項目	小項目	質問・意見の要旨	担当課	回答等の要旨 (※対応予定及び対応済は、朱書きで入力)
永田	4月25日	08農業	今後の農業	松前町の農業を今後どのように考えてゆくか。永田地区の農地は約31haあり、約7割の23haは今後も担い手が確保されているが、今のままでは先々はつくり手がいなくなる。H23年に農業促進計画を策定し、ほ場を15aにするなどの考えがあるが、抜本的な基盤整備、大規模ほ場への転換が必要である。事例として島根県安来市は農業生産法人を立ち上げ、県と協力して168ha（事業費約30億）のほ場事業を完成させた。国・県・市町の負担により、農業者の負担はゼロと聞いている。こういった先進事例を参考に松前町もほ場整備などを検討し、今後の農業対策に真剣に向き合ってもらいたい。	産業課 まちづくり課	農業者の減少や高齢化、耕作者の継承問題は喫緊の課題である。そこで10年先の地域の農業をどの様に進めてゆくかを考えるのが「人農地プラン→地域計画」である。これを策定するにあたり、様々な意見を地域から聞きながら、農業振興に向けた取組を検討したい。多面的の事業や国県補助の土地改良事業は今後も活用して、施設の延命化を図るとともに、「町単独事業の畦畔除去」を将来は拡充、農地の大型化に努める。担い手が何を求めているかなどを模索していきたい。 ご指摘のほ場整備による、区画の拡大化はばく大な費用がかかる、農業者の負担は少ないかもしれないが、町の負担は大きいと考えている。また、受益要件もあり、先進事例が松前町に適合するかは分からないが、ほ場整備については今後研究する。
大溝	5月9日	08農業	先進地研修	「全国農業担い手サミット」への参加について、平成30年頃までは町からの補助を貰って参加していたが、近年は補助がない状況である。近隣市町は継続して補助をしている。担い手にとって全国交流は見地も広がり、効果的がある。補助金の復活を前向きに検討して欲しい。	産業課	係に確認し検討したい。 平成30年度まで隔年で補助をしていたが、近年は参加者が固定していたことから、町からの支出を廃止した。しかし、加速的に広がる農業後継問題など担い手の見地を広げることは重要と考えており、令和7年度から近隣市町と同様に農業関連協議会への補助金を増額することを検討したい。
塩屋	6月27日	08農業	今後の農業施策	農業後継問題や農地の管理のほか、今後の農業について、町はどのように考えているのか。	産業課	今後は、農地の集約化、法人化、高利多売が理想であり、そういった取組を町としてサポートしていきたいと考えている。
塩屋	6月27日	08農業	農地の集約化	農地の集約化は大変である。皆、先祖代々の土地を安く売るよりも少しでも維持していこうとする。ハードルは高いと思う。	産業課	集約化は簡単ではないが、地区によって考え方も異なると思う。今地域ごとで作成してもらっている地域計画で集約化の方向性について検討してもらいたい。
塩屋	6月27日	08農業	農地	農業をしており農地も所有しているが、農業をしてくれる後継者がいない。農地を手放したいと考えているが何かよい方法はないか。	産業課	誰かに耕作してもらうのではなく、農地を手放すということであれば、他の農業者への売買ということになる。 「農業委員会」と言う組織があり、地域の農業・農地に精通した人が委員を務め、月1回の会議の中で「作り手の斡旋など」も協議される。個別案件として窓口を訪ねる様にされたい。
塩屋	6月27日	08農業	農業用ポンプ	農業用ポンプの電気代について、他の地区では町が支払っていると聞いている。塩屋地区「和多都見神社の北」のポンプは以前、町が電気代を払っていたと聞いている。また、そのポンプ場は現在、蓋をして使っていない。どのような経緯か教えて欲しい。	産業課	町内に農業用ポンプは百数か所あり、その電気代は各地区が支払っている。例外として、岡田校区の二十数か所は「東レ地下水取水の関係」で昔から町管理ポンプとして位置付け、電気代を町が支払っている。神社北のポンプ場の経緯については調べて回答する。 当該ポンプ場は、かつて町管理ポンプとして町が電気代を払い、塩屋地区が使用していた。しかし、令和4年9月頃、長らく使用がないことに気付き、塩屋区長と協議を行い、「今後も使用予定が無い」とした地元の判断を受け、電気契約を解除したものである。なお、後の施設の除却についても、土地改良事業が可能であることを伝えている。
鶴吉	7月9日	08農業	補助事業	鶴吉地区では、「多面的機能支払事業」を利用して、農道・水路の維持管理や井手清掃を行うなど、住民が一体となって地域の保全を行っている。継続して国・県の補助事業等を要望し、財源の確保に努めて欲しい。	産業課	国や県から財源を引っ張ってくるのはとても大事だと思っているので、そのように努めていきたい。
西高柳	9月30日	08農業	北川原地区の設置した重信川からの引水設備	引水設備の格子堰にゴミがたまり、上流側の水位が上昇して溢れる。ゴミを取り除くと水位が40cm以上は下がる。大雨が予測される時は格子堰を外したらダメなのか。大雨時の格子堰のゴミ詰まり、水位上昇越水の対策対応をお願いしたい。	まちづくり課	持ち帰り検討する。 役場、西高柳農業区長、北川原農業区長で現地でスクリーン堰の管理等について聞き取り及び協議を実施。 スクリーン堰の所有者は北川原、管理は西高柳が行っている。北川原と西高柳の合意のもと、10/2からスクリーン堰を撤去し、様子を見ることとした。

地区名	開催日	大項目	小項目	質問・意見の要旨	担当課	回答等の要旨 (※対応予定及び対応済は、朱書きで入力)
出作	10月1日	08農業	荒廃農地	農業者の高齢化により、地域内でも荒廃農地が見られるが、誰かに耕作をお願いするにも手法が分からない。今後農地の荒廃化が進むことが危惧されるが対応策は。	産業課	農業の後継者不足は加速化の一途を辿っている。農業を継続させるために、長期的には、「区画の大型化・生産者の法人化・高品質作物の取組」などが理想である。身近な対応としては、担い手に頑張って貰いたい。「農地バンク」に登録し、「貸手てと借手のマッチング」により作ってもらうなど、役場産業課（農業委員会）に相談されたい。また10年先の地域の農業の在り方、「地域計画の策定」を現在各地区で行っている。是非出作地区も進めて欲しい。
横田	11月13日	08農業	農業後継と開発	農地を他の人に貸しているが、将来的に青字を白地にし、宅地化できないか。代替わりすると、尚、管理が難しくなるのでは。	産業課	農業を振興する地域では、容易に白地に転換できない。農業をしやすように環境も整備され、投資もされている地域である。担い手については、地域や町の農業委員会に相談されたい。宅地化については、県が広域的な見地で整理している。宅地化には道路や水道などの基盤整備が必要であり、市街地に宅地は余っており、新たな投資は考えづらい。
横田	11月13日	08農業	農道の保全方法	農道にコンクリートを入れてほしい。伊予市は砂利道にコンクリートを入れて通り易くしている。どの場所と言う特定はないが、横田の農道を通り易くしてほしい。	産業課 まちづくり課	伊予市がどのような事業で農道をコンクリート化しているかわからないが、町では「土地改良事業（地元負担金が必要）や原材料支給（要確認）・多面的事業（要確認）」という補助事業で地域から申請いただければ実施は可能であるため、大字横田で検討いただきたい。 横田地区は多面的事業に取り組んでいるため、原材料の支給は無い。多面的事業でコンクリートを農道に充填することは出来ない。
横田	11月13日	08農業	地域計画の進捗	地域計画（人・農地プラン）について、令和7年3月までに地図を完成し、公表しないと聞いている。先般、横田地区もアンケートを実施し、進めている。この後のスケジュールについて教えてほしい。	産業課	地域計画（人・農地プラン）の策定については御理解のとおりである。スケジュールについては、持ち帰って農業振興係に確認する。 11/25（月）の週に担当職員が横田地域を訪れ今後の進め方の協議・指導を行う。